

松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第2回）開催概要

日 時	平成27年10月16日（金）	16:00～17:30
場 所	松戸市役所 新館5階	市民サロン
出席者 （敬称略）	秋田典子、影山貴大、高橋正剛、高山健太郎、平岩光現、 眞壁哲夫、吉原康夫	（欠席：角畑博文）
事務局	松戸市総合政策部まつど創生課	

■次第1 「開会」

（秋田氏 自己紹介）※前回欠席のため

- ・千葉大学松戸キャンパスで仕事をしている。松戸市との関係では、景観審議会のほか、「やさシティ、松戸。」のロゴマークとキャッチフレーズを決めるときの委員なども務めた。今回も積極的に発言したい。

■次第2 「懇談会テーマ」

～「松戸市人口ビジョン」「松戸市総合戦略」の案について

○議論の前段として、事務局より以下の3点について説明

- ①前回の骨子案から今回の案に至る過程での変更点
- ②前回提示された意見についての市の受け止め方
- ③現在の事務局側の計画策定状況

（事務局）

- ・今回提示した人口ビジョンと総合戦略の案については、これに基づき庁内で最終調整を行っており、10月末の完成を目指している。本日の懇談会での意見に基づく調整も予定。

(秋田氏)

- ・松戸市の歴史や文化を代表するものとして「矢切の渡し」がある。「戸定ヶ丘歴史公園」よりも全国レベルでの知名度は高いのではないかと。前回の懇談会で、松戸にはお土産がない、という発言があったが、「矢切の渡し」には最中などのお土産もある。葛飾とつながっており、東京のお客さまを引っ張ってくる大事な窓口でもある。
- ・都市の景観は都市ブランドの中で非常に重要であり、まちの印象を大きく形づけるもの。市全体として、松戸の都市景観について取り組んでもらいたい。それが、都市ブランドづくりにつながっていくと思う。

(影山氏)

- ・人口ビジョンで示した 50 万人が、目標ではなく、目指していくという中での設定ということで、それならいいかなと。現実的には人口は減少すると思うが、少なく見積もるより多く見積もって、そこに向かっていくほうが市民のモチベーションが上がる。
- ・人口が減ったとき、どうすれば財政を維持できるかという視点も大事であり、総合戦略の基本目標Ⅳ「経済が活性化し、安心して働けるようになるまちづくり」と非常に密接につながってくる。
- ・重要業績評価指標、K P I が設定されたが、まちづくりにおいて数値でモノを評価するのはなかなか難しい。この数値がまちの活性化を測る基準として相応しいものという理解を得られるかどうか。とはいえ数値を出すのは非常に重要だし、無駄だとは思わない。こうした評価に加えて、まちに対する思いや誇り（シビックプライド）を測るアンケートによる評価なども地方創生全般では必要となってくると思う。
- ・松戸市は広いので、地区が分断されていて横の連携が弱い。八柱や常盤平、松戸駅周辺など特徴的なまちづくりをしているので、それらの連携を強めていくのもよいのではないかと。

(高山氏)

- ・連合としても、働くことを軸とした安心社会を目指しており、基本目標Ⅰのうち「誰もが輝き、安心して結婚、出産、子育てができるまち」の箇所はよくできていると思った。欲を言えば、世の中の二極化が進む中、経済弱者、ワーキングプアをサポートする視点も加味していただきたい。
- ・例えば松戸の児童養護施設「晴香園」の出身者が、独立後も松戸市に住むならば住宅あっせんや補助をするなど、縁があって松戸に住まれた方を外に出さないという経済弱者への支援策もあるのかなと思う。世田谷区ではすでに始めているようだ。
- ・高齢者についてもお金を持っている人とそうでない人がいるので、できるだけ働ける環境を整備したい。シルバー人材センターなど行政がやっている事業で、まだまだ働ける場所はああると思う。
- ・船橋では高根公園を刷新して、病院のすぐそばに高齢者の住まいをつくるなど、セットでのまちづくりをやっている。松戸市も常盤平団地などにおいて、そのような取り組みを行ってもおもしろいのではないかと。

(平岩氏)

- ・基本目標Ⅰ～Ⅳでやることを網羅していて、非常に良くできていると思う。
- ・前回も申しあげたが、「子育て」「高齢者」「賑わいのあるまちづくり」など、どこの行政も同じような取り組みをする中で、松戸市はどこに特色を出していくかが重要。
- ・人口の増減ということで、特に転入を考えたとき、「立地条件の良さ」が一番わかりやすい松戸の強みだろう。こうした強みの見せ方、出し方が大事になってくる。
- ・ジェイコムグループでは、この10月から「週刊シティプロモーション～ご当地サタデー」という、市長や出身著名人がまちのプロモーションをする番組を始めた。1時間の生放送で、もし松戸市が番組に出るとしたら、わかりやすく魅力的に全国に何を見せることができるか。

(眞壁氏)

- ・松戸、柏、流山といった地域は、東京のベッドタウンとして人口が増え、商業施設も増えるという良い循環があって発展してきたことは共通しているが、それが一旦上限にきて、これからどうしようか、ということだと思う。松戸とTX沿線との間には、経済環境上の違いがずいぶんあると改めて認識させられた。
- ・柏の葉キャンパス駅周辺は、まち全体がコーディネートされていて美しい。松戸はそれ以前の時代につくられたまちなので、違いを感じる。人口ビジョンで分析しているように、ファミリー層が松戸から柏や流山に移っているという実感を持った。他方、20歳代が転入しているのは交通の便利さからであろう。
- ・今後そうそう人が増えないとなると、別の方法でまちを活性化させていくことを考えねばならない。それが基本目標Ⅰにある「ブランドづくり」なのだろう。
- ・「日常的に歴史・文化を感じられるまち」というのは、柏にも流山にもない松戸市の一番のセールスポイントでは。徳川昭武が榎本武揚に誘われたけれども五稜郭に行かなかったとか、慶喜は最後戦わないで、江戸幕府側からは何だということになるが、ある意味では明治維新を軟着陸させることに貢献し、そんな江戸のまちを眺めたいということで昭武は戸定邸をあそこに造ったんじゃないか、とか勝手なことを想ったりもして。シリアの内戦のひどさを見てみると、そういうものを切り抜ける英知のようなものがあつたのではないか。その英知の結晶があつた場所、あの建物だという風に組み合わせると国際的にもアピールできるようにすると、歴史を深く味わえる場所になるのかと。総合戦略の文言では「ブランド化」ということになるのだろう。
- ・昭武が何を食べていたのか、どんな服を着ていたのか、使っていた日用品のレプリカなりを作って売るといったビジネスもあっていい。そうして組み合わせる軸のよなものを松戸ならではの歴史や文化を意識して進めると特色が出ると思う。

(吉原氏)

- ・総合戦略に5年後の数値が出ていたので、わかりやすく読むことができた。
- ・松戸の一番の魅力は6路線23駅ある「交通の利便性」だろう。船橋よりは少ないが全体的にある。それに加え常磐線快速の新松戸駅停車とか地下鉄11号線のことも総合戦略には盛り込んでおり評価できる。
- ・基本目標Ⅳの中に、商品やサービスのブランド化について記載があり、確かにそのと

おりだが、まちのブランドというのがこれから必要になってくると思っている。交通の利便性もブランドでしょうし、人口を増やしていくなら、まちのイメージアップも図らなくてはならないと。全国 1,700 の市町村が総合戦略をつくるのだから松戸が地域間競争に勝つためには、もっとイメージアップを図るものが必要とも思う。

- ・松戸ビルディングができたときは、東葛一のビルといわれたと聞いている。すでに成熟してしまって若者へのイメージアップがなかなかできないということであれば、ダウンと「松戸はこういうものだ」というハコモノのようなものが必要な気がする。
- ・日本商工会議所は全国の商工会議所に対し、まちの観光に力を入れなさいと言っている。松戸は観光地ではないものの、日帰り観光事業の支援にも力を入れてほしい。文化・歴史が他より多いまちということで、そうした視点も持って進めていただきたい。

(高橋氏)

- ・前回懇談会でいただいた意見、その他の意見をなるべく反映させて今回の案に至っている。
- ・人口の将来展望の立てかたは非常に悩んだが、さまざまな検討を加えた結果、現在の水準である 50 万人程度、という表現にした。人口ビジョンに記載のあるように、シミュレーション上は 49 万人になるようなものになっている。
- ・松戸駅周辺のまちづくり基本構想は、駅の周りだけでなく、「矢切の渡し」を含めた矢切地区の地域資源の活用も含め検討を進めている。「高齢者の就労対策」「地区の連携」など、いただいたご意見はまさしく力を入れていかなければならないことで、総合戦略に書けるものは書き込んでいっている。
- ・シティプロモーションの番組についてご紹介があった。松戸市は「子育て・教育・文化」が第 1 の柱だと考えており、子育て支援の施策に非常に力を入れてきた。しかし、松戸市に転入した方へのアンケート結果を見ると、市の取り組みと他自治体の取り組みとは意外に比べられていない。努力していろいろなことをやっているが、しっかり発信しないと伝わらないと感じている。いかに PR していくのか、どう特色を出していくかが重要だと改めて思った。本市のシティプロモーション担当でも、いま都内へのデジタルサイネージ広告を打ったりしている。
- ・TX 沿線地域と比べ、「流山・柏が勝ち組」と先日新聞報道に書かれたが、松戸市には「立地の優位性」という潜在的な力があると認識している。例えば松戸駅周辺や新松戸駅の東側などには発展の余地も残している可能性があることを考慮して人口ビジョンを立てている。その余地の部分についても今後検討を加えていくことを総合戦略には書き込んでいく。
- ・肝心なのは総合戦略に書かれたことをどういうふう to 実現していくか。PDCA サイクルを回して検証することになっているが、それが今後の課題だと思っている。

.....

(事務局)

- ・以降はテーマを絞って、そのテーマに関する意見をいただきたい。
- ・まず、都市の景観、まちのブランドという観点からのご意見を。

(影山氏)

- ・若者から「松戸駅周辺は魅力がない」「松戸駅には降りたいと思わない」とズバッと言われてショックを受けたことがある。駅を降りたときにごみごみしている。景観と呼んでいいものか、ただビルが立ち並んでいるだけで風景になっていない。まちとして整っていないといった感じがする。案内掲示板も見づらいという話も聞く。はじめて来た学生が、どこの改札から出ればよいのか分からないそうだ。ダブルデッキうまく活かしきれていない。
- ・大きな商業施設の有る無しではなく、駅周辺の環境は重要である。新松戸の反対側や矢切、秋山など、まだ手の加えようがある、開発の余地がある駅周辺はもう少し整備を進めてほしい。
- ・住民を交えて考える機会があってもいいのかなと思う。せっかく4大学があるのだから、例えば松戸駅の景観を良くしていくために、学生たちが彼らの力で何ができるのかを話し合うとか。我々懇談会の意見だけではなく、住民の声を拾っていく。住民自体がいかにまちに関わっていけるか重要だと思っている。

(高山氏)

- ・勤務先であるマブチモーターは新社屋を建てるにあたり、かなり景観を重視して、周りの土地の整備を含めて実施した。その後は見学者も結構多くきている。ただこれは経営者の先見の明や理解があっただけなのであって、他の企業に、景観を重視した建物を、ということまでいかないだろう。駅周辺はビルの一部を借りて営業する人が多いので、景観ということになるとビルのオーナー、地権者の考え次第ということになってしまうのかもしれない。
- ・都市計画としてここは再整備しますよ、ということはあるのか。外環道ができたときの、バス路線も含めた再整備の話が盛り上がっていると聞いたことがあるが、そういったこととからめ、メリットデメリット含めて地権者と話を進めていただければと思う。

(平岩氏)

- ・松戸駅周辺や新松戸駅周辺は、市のイメージを代表するもので、その景観は大事なこととは思う。
- ・ただ、例えばTX沿線の「柏の葉」とか「おおたかの森」のようなものを目指すのかというと、それはちょっと違うのではと感じる。松戸市は歴史と文化があるまちで、総合戦略でもその辺を推していこうというのであれば、もちろん若者がいいなと思う最低限の整備はやったほうが良いと思うが、「近代的な」というようなイメージよりは、「これだけ立地条件がいいまちなのに、『落ち着いた』だとか、『歴史文化を感じられる』」というような、流山や柏のTX沿線と違う色で出していくほうがいいのか、と他の意見も聞いていて思った。

- ・もちろん「若者が降りたいと思わない」というのは非常に大きな問題。そういったイメージは大事なので、いろいろと計画もあるということなので、整備していったほしい。

(眞壁氏)

- ・先ほど私が話題にした「柏の葉」はいわば更地からデザインしていったまちで、まるで日本じゃない都市のような設計が出来ちゃって。これだけ歴史のある松戸の駅前というのは現実的でない。別の視点が必要。
- ・先日の「献灯まつり」に関わった人々と話をする機会があって、今年は特に大盛況でお客さんが万単位で来たそう。坂川は昼に見るとちょっと汚いような感じもあるが、夜、灯籠流しなんかをすると、それなりに情緒があるといって惹かれて来る人も結構大勢いるらしい。そういった意味では、昼間から情緒があるくらいにまで坂川を綺麗にすることはできないかなと。その坂川の先をずっと行って戸定邸までのところを何とかできないかなと。そこから更に千葉大学の庭園までをふらっと行けるようになって、駅前を少し綺麗にすると、「行こうじゃないか」、「ふらふらしてみようか」という感じになるのでは。

(吉原氏)

- ・景観が悪いから人が来ない、ということでもないのかなと思う。松戸駅周辺に大学が3つあるのに若者がいない。何でだろう、ということ。人がいるところに人は集まってくるもの。では人を集めるにはどうするか、ということになる。
- ・可能性があるとするれば、松戸駅西口からまっすぐ歩いて700メートルのところにあれだけの江戸川があることはどうか。水と緑のまちと謳っているが、そこに行く子ども連れで遊べるような環境でもない。ベビーカーで西口には降りられないが、そういった整備もして、ベビーカーを押して江戸川に遊びにいけるような何かがあれば、もしかしたら若い人たちも来るのかなと。もったいないです。これだけの大都市で駅から700メートルであれだけの河川があるところは、なかなか無いと思うので、そういう所の掘り起こしも戦略のなかでやってもらいたい。
- ・せっかく松戸の真ん中に「21世紀の森と広場」があるが、もうちょっと何とかならないものか。都心からこんなに近いところにこれだけのものがあると市外の人に発信していけば、すぐにとはいかないがイメージが変わって、まちに人が集まってくると思う。人が集まってくれば店もできてくる。

(秋田氏)

- ・松戸駅前は松戸の顔と思っている。
- ・「やさシティ、まつど。」のロゴマークは松戸在住の人がデザインし、しかもそれほど若いというわけではない人がこういうセンスでデザインしたのがいいなど。矢切のねぎがあったり、二十世紀の梨があったりと松戸の名物も入っているし。お父さんとお母さんが子どもを育てているという絵の応募が多かったなかで、これはそうではなく、コウノトリが赤ちゃんを運んでくるような絵になっている。色々な家庭があるなかで、両親がいて子どもがいてという絵でなくて、色々なものを受け容れるという意味でも、

こういう書き方が大事じゃないかなと。私はこのロゴマークを気に入っている。もしこれが松戸のイメージだとすると、だいぶ違うかなと。

- その後、ゆるキャラの「松戸さん」というのが出てきたが、これが今の松戸駅のイメージなのかなと思う。ちょっと疲れたサラリーマン。そのギャップ。あの「松戸さん」でいいのか、「やさシティ、まつど。」のイメージを目指すのかと。人口ビジョンをみると、ファミリー層の流入を頑張って増やさなくてはいけないなかで、「松戸さん」的イメージの松戸駅でファミリー層が来てくれるかという、住宅の選択など奥さんがしているとよく言われるが、奥さんが選ぶのは「松戸さん」よりも「やさシティ」のほうなのかなと。TX沿線のようにする必要はないが、ファミリー層に来てもらうためには、もう少し整える必要があるのでは。

(高橋氏)

- 松戸駅周辺が松戸のイメージをつくっているというのは同感。そこに向けた努力をしていきたい。総合戦略にも記載のある松戸駅周辺のまちづくり基本構想の関係もそういった視点で取り組んでいかななくてはならないと改めて認識した。
- 再開発というのはお金も労力もかかることだが、駅周辺の景観ということではそれ以外にも治安の関係やゴミの関係など市役所各部署が努力しているところ。デッキ上の喫煙所のことなども、市民からメール等で意見が寄せられており認識は持っているが、利害関係もあり、なかなか難しいもの。

.....

(事務局)

- 続いて、ワーキングプアなど経済的な問題と、結婚や子育ての関連などについて意見をいただきたい。

(秋田氏)

- ロゴマークの件でも触れたが、LGBTなど多様な人がいるので、必ず皆が結婚しなくてはいけないとか、皆が出産しなくてはいけないとか、そういう風には書かないでもらいたい。
- 他自治体のまち・ひと・しごと戦略でもそうだが、「結婚できるようにする」「子どもを産めるようにする」ということがやや強制的に書かれており、こうした表現には若い人に抵抗感や批判があるので、そこをあまり強要しないことが大事。結婚したい人はすればいいけれども、したくない人はしない権利だってあるだろうということ。
- テーマから逸れるが、人口ビジョンのなかで面白いと思ったのが、50～70歳代の転入超過が松戸市にあるということ。若い人がいるのは大学があるからなのだろうが、高齢者がたくさん転入しているのはどういうことなのか教えていただきたい。

(事務局)

- その件は国でも非常に興味深い事象として捉えているようで、データを見ると、松戸市に近い東京23区の東部から高齢者が一定の割合で転入している。何が起こっているのかということで、先般関東ブロックの会議でも、地方創生のデータ分析によって

国もはじめて分かったことの一つとして取り上げられた。今後調べていかななくてはいけないことがたくさん分かってきている。

(秋田氏)

- ・50～70 歳代という年齢層が転入している事実と、ファミリー層の転入を目指す方向性との間には、矛盾があるとも考えられる。高齢者の転入超過をどのように捉えるか、もう少し考えた方がよいと思う。

(影山氏)

- ・都内だと 60 歳代の方が 20 歳代よりも稼いでいたりする。松戸に 50～70 歳代が転入しているという事実は面白く、ある意味「強み」になると思う。
- ・例えば、まち全体をバリアフリー化するのは難しいが、高齢化の進む常盤平団地に特化してそうした取組みを行い、シニア世代が働ける場を提供することなども考えられる。地区ごとに方向性を特化し、それを尖らせていくと、面白いのではないか。
- ・最近では IT を使った働き方というのがある。市民活動においても障害を持った方なども活躍しているが、職に就くのが難しいという現状がある。そういう人でも IT を駆使することによって、まちなかで職を得たり仕事をつくったりすることが今後考えられる。子育て世代のお母さんが松戸のなかで起業できる支援もあるとよいと思う。
- ・松戸には約 90 か国の外国人が住んでいるとのこと。こうした多様性は「問題」ではなく「強み」になると思う。いろいろなものが織り交ざっているという多様性が、松戸を松戸たらしめている。
- ・先ほどの駅周辺の話もそうだが、景観は単に見ただけではなく、そこに住まう人の営みも含めて景観だと思う。多様性を受け入れながら、市民のさまざまな意見を吸い出しつつ、市民がまちづくりに参画してもらうような仕組みができれば、それだけで松戸の魅力になると思う。

(平岩氏)

- ・松戸市に 50～70 歳代の転入が増加している理由は何となくわかる気がする。私は江東区の東陽町という所に住んでいるが、なぜそこに住んでいるかといえば、便利だからという理由が一番大きい。例えば自分が 60 歳代、70 歳代になったときに、便利なほうがいいですけど東陽町である必要はないかなど。じゃあもう少し地価の安いところでどこかないかという時に、松戸ってそれなりの利便性もあって、落ち着いていて、自分にとっては十分に候補の一つになり得るので、何となく分かるなあと思う。なぜ転入してきたのかという動機を聞いてみてもヒントになるのではないか。
- ・ファミリー層でも、「流山おおたかの森」のようなまちに住みたいという人も多いだろうが、それが全てではないと思う。子育てをするにあたり、便利で落ち着いたまちを選択する人も、掘り起こせば出てくるのではないか。
- ・松戸の「強み」のどの部分を突出させて前面に打ち出していくべきか、今後のヒントになると考える。

(眞壁氏)

- ・我々の世代である 50～70 歳代の転入の件は興味深い。銀行時代の同期の仲間には定年後の生活を考えて、交通の便が良いところに引っ越す者も少なからずいる。
- ・ただ、そうした年齢の人が増えると、いずれは高齢者にかかる費用増加の問題にもつながってくる。そういう意味でも、移ってきてまだ元気な人をいかにして組織化するかということが課題になる。
- ・最近の高齢者は、老人クラブのような従来型の高齢者組織には入らない。行くところのない人は結局図書館に行ってみたり。大学の図書館には入れないんですか、といった問い合わせもあるようだ。図書館で本を読んでいる人たちは、実は本当はもっとコミュニケーションをとって積極的に活動したいと考えていると思うが、組織がないという感じ。震災後、ボランティア活動に東北へ向かったのもそうした流れの 1 つ。そのような人たちを恒常的に地域で組織化できるとよいのではないか。

(秋田氏)

- ・松戸市の将来像を考えていくにあたっては、ファミリー層ではなく、50～70 歳代の人たちをもっと活かすことを考えていく方がリアルかもしれない。

(吉原氏)

- ・日本商工会議所から各商工会議所に対して婚活事業をやるようにとの話がきている。イベントとしてまちの活性化につながるのであれば、婚活事業を会議所がやってもよいと思うが。秋田先生の言うとおりの、「結婚しなさい」ということをあまり強調すべきではないと思う。自然に結婚するようになればよい。
- ・松戸商工会議所では、明日から創業塾をスタートさせる。他では創業塾の参加者が集まらず苦勞していると聞くが、50 名弱とはいえ松戸では集まっている。年輩の方からの問い合わせも結構あり、いろいろな能力を持った人がその能力を活かした仕事をして、第 2 の人生を送ろうとしていることが窺える。今後どのような創業支援ができるかが課題である。

(高山氏)

- ・ワーキングプアのそもそもの原因はブラック企業だと考えている。ブラック企業をなくすために、連合でも相談窓口を常設して対応している。市や労基署は臨検を強化してほしい。
- ・いま職場内外の交流が減っていることに加え、仕事が多忙で生活に余裕がないという傾向が見られる。ワークライフバランスを整えていけばアフターファイブも充実し、自然と結婚に結びついていくだろう。
- ・子どもは親に育てられるだけでなく、地域社会に育ててもらおうという側面が大きい。子どもを通じて地域社会との関わり合いが強くなる。
- ・多くの市民は、将来的に人口が減少していくことをさほど強くは認識していないと思う。移民政策などを持ち出して不自然な意識付けをする必要はないが、ワークライフバランスを整え、自然の流れの中で結婚や出産につなげていくのがよいのではないか。そうすれば結果的に人口が増えて、市も活性化するだろう。

- ・また、結婚や出産だけでない多様な生き方があるのだから、松戸市のなかでも教養とか文化とか、地域で子ども達と関わりを持って、リタイアされた人も含めて地域のつなぎ役になってもらうなど、活躍の場は色々あると思っている。

(秋田氏)

- ・ブラック企業対策はぜひ取り組んでもらいたい。
- ・総合戦略の基本目標Ⅳ「経済が活性化し、安心して働けるようになるまちづくり」の中で、指標として「20歳代の完全失業率」が掲げられている。確かに20歳代の失業も問題だが、若いうちは次のチャンスがある。40～50歳代の失業の方がより大きな問題ではないだろうか。
- ・ニートとの競合で松戸でのアルバイトがなかなか見つからない、と学生が言っている。特に居酒屋は、週7いつでもシフトに入れますというニートには、学生は勝てない。松戸でアルバイトができないことが学生の悩みの一つ。失業しているのかどうかは分からないが、いわゆるニート状態の若い人が松戸には多いのではないか。

(高橋氏)

- ・今回の総合戦略は、人口減少に国を挙げてどう対応していくかというなかで、国民にアンケートを取って、結婚する希望を持っているのだけれど、それがかなう環境がない、そこには経済的な理由が大きい、ということからスタートしていると思っている。非正規雇用の問題など就労環境に関することは、市役所レベルで変えていくことはなかなか難しいとは思いますが、若い人たちが希望を持っているのに結婚ができない、出産を考えなくなってしまう、ということに対して、市でできる部分の環境は整えていかなくてはいけないという思いのなかでの総合戦略になっている。
- ・今回もまた、私たちの刺激になるような意見をたくさん頂いたので、そういったことを参考に今後の事業を展開していきたいと思う。

■次第3 「事務局からの報告」

(事務局)

- ・策定までの懇談会は今回で終了となる。総合戦略に関しては、策定後の検証が求められており、行政だけでなく外部のかたを交えてやりなさいというルールが国から示されている。今回のような懇談会形式にするか、あるいは条例に基づく審議会形式にするかは今後検討するが、皆さまには次年度以降も引き続き力を貸していただきたいと考えている。

■次第4 「閉会」

以 上